

日時：2021年8月10日(火)～8月11日(水)

行程

8月10日(火)JR唐崎駅 5:43＝JR茅野駅 9:28～JRバス南アルプスジオライナー～南アルプス林道バス～北沢峠着 11:35～12:00 テント設営

8月11日(水)北沢峠出発 4:15～仙水小屋 5:08～仙水峠 5:55～駒津峰 7:30～駒ヶ岳 9:35 出発 9:55～駒津峰 11:28～双子山 12:20～北沢峠 14:00～長衛小屋テント場 14:15～テント撤収～北沢峠発 15:30 の南アルプス林道バス～JRバス南アルプスジオライナー～JRで帰滋賀

北沢峠標高 2,036m 甲斐駒ヶ岳 2,967m 最大標高差 931m

駒ヶ岳登山計画に当たっては、おとしに雪稜会の皆さんが登っておられるので、その記録を参考にさせて頂きました。

1日目は、滋賀からきて、昼にはテントを張って、周囲をウロウロ・・・。テント場は結構な賑わいで、この時点で50張りまでの数を数えることが出来ました。北沢峠のテント場では、私の隣にテントを張った若いソロの山ガールと交流し、楽しいひと時も。

さて次の日、早朝まだ暗い中を出発したのはいいけれど、長衛小屋の裏の橋を渡り、右に行けば栗沢山、左へ行けば仙水峠の道を左に進み、沢沿いの広場まで進んだところまでで登山道が分からなくなり、たまたま一緒に歩いていた人とヘッドランプで周囲を照らしながらの道探しで、時間ロス。結局、登山道は広い場所の隅っこにあり、周囲が明るかったら難なく見つけることが出来たでしょう。

そして樹林帯を歩き、仙水峠のこんこんと流れる水をお相伴して先を進むと岩塊斜面と呼ばれる岩の山が突然現れ、びっくり。その暑く乾いた岩場を歩いて仙水峠着。ここから岩のある登りが続き、這い松に覆われた駒津峰についてほっと一息つくのも束の間、眼前に現れた甲斐駒の圧巻の姿に呆然とする。と、傍らの男性も「あ、あれを登るんやな・・・。」その口調から、人って感じることは似ているのだな、と少し安心。

そして六万石を過ぎて、現れる摩利支天の魔訶不思議な山容や相反してたおやかな仙丈ヶ岳の姿を眺めることで登りのしんどさが幾分和らぎ、登りにくい砂の斜面を進むことができました。

深田久弥が百名山で一番美しいと言った駒ヶ岳山頂は、花崗岩の白砂からなる一帯で本当にこの世のものかと思うほど明るく不思議な感じがしました。

話は変わりますが、次の日は雨予報が出てしまい（最初は2泊3日の予定で仙丈ヶ岳へも登る予定でした）テントを撤収する人が目立ちました。テント場にいたおじさんのなかには、「早朝に雨がくる前に登ってしまうつもり」とか「いつも天気なんか見てない」などと言う強者もおられました。私は後ろ髪ひかれる思いで仙丈ヶ岳登山を断念しました。（家族からは褒められました(^-^;)）

記：SM



駒津峰にて
甲斐駒ヶ岳を背景に

